

肉体の冠 (1951)

CASQUE D'OR
GOLDEN HELMET

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 98分
初公開日 1953/02/02
公開情報 新外映= N C C
リバイバル 1995/12 [デラ]

【解説】

原題は“黄金の兜”の意で、主役のシニョレの娼婦マリーが、ブロンドの髪を兜型に結って、そのあだ名で呼ばれるところによる。主人公は娼婦であるが、純愛映画と呼んで差し支えない内容で、一見するだけだと、全く淡白な印象を与えるかもしれない。舞台は19世紀末のパリ。郊外で仲間とボート遊びに興じていたマリーは、カフェで修繕の仕事をしていた大工マンダに惹かれ、ちょうど気まづくなっていた与太者の情夫ロランへの当てつけに彼と踊る。怒って殴りかかったロランを逆にのして、マンダは彼の恨みを買う。日曜日の憩いの内に起こった不安な胸騒ぎ。無駄のない素晴らしい滑り出しで、以下、ある程度予想のつく展開ながら、そのつど、語り口の鋭さに感心してしまう。酒場に出かけ、ロランと決闘する羽目になったマンダは彼を殺してしまうが、マリーと共に田舎の百姓家に逃げ落ち、そこで愛の日々を送る。が、マリーを横取りしようという親分ルカの奸計で、マンダの親友レモンがロラン殺しの下手人として挙げられ、義侠心に溢れたマンダは自首して出るが、これがルカの罠と知って、共に護送されたレモンと、刑務所の前で待ち受けたマリーの馬車に飛び乗って逃げるが……。感傷に流されないそのラスト・シーンを始め、ベッケルのあっさりした写実の背後にある逞しいデッサン力と、映画的アクションの組み立ての天才的うまさには嫉妬さえ感じ、シニョレの超然的な、“女性”そのものの魅力には脱帽するほかない。

【クレジット】

監督	ジャック・ベッケル	Jacques Becker
脚本	ジャック・ベッケル	Jacques Becker
	ジャック・コンパネーズ	Jacques Companeez
撮影	ロベール・ルフェーヴル	Robert Lefehvre
音楽	ジョルジュ・ヴァン・パリ	Georges Van Parys
出演	シモーヌ・シニョレ	Simone Signoret
	セルジュ・レジアニ	Serge Reggiani
	クロード・ドーファン	Claude Dauphin
	レイモン・ピュシエール	Raymond Bussieres
	ウィリアム・サバティエ	William Sabatier
	ダニエル・マンダイユ	Daniel Mendaille